

# 未来変える取り組みに

八工大×住民団体 島守地区からSDGs推進

## 来月から始動

八戸

八戸工業大学(坂本禎智学長)は26日、八戸市南郷島守地区の住民団体「島守田園空間博物館運営協議会」(高橋夏男会長)と共同で、国連サミットで採択された国際目標「SDGs(持続可能な開発目標)」推進のためのプロジェクトを7月から始めると発表した。3年間にわたり教員や学生が島守地区に入り込み、住民と協力し合い、ライフラインの確保やエネルギー、生物多様性などさまざまな分野で課題解決のための研究、実践活動を進める。

(近藤弘樹)



「こまもりSDGs実践プロジェクト」を説明する星野教授(八戸工業大学)

## エネルギー、農業… 課題解決へ

坂本学長とプロジェクトリーダーの同大社会連携学術推進室次長の星野保教授、同協議会の上野大輔事務局長らが同大で会見した。

計画している取り組みは「燃料電池などを使った停電時のエネルギー確保」「小規模給水装置による断水時の水の供給」「果樹栽培などにかかわる土壌凍結リスクの軽減」「島守弁の分析による伝統文化の保存継承」など多岐にわたっている。活動記録や研究成果は報告書にまとめ、次の教育研究や具体的な取り組みにつなげる。

島守地区は周囲を山に囲まれた典型的な山村で、居住空間、農地、林地がコンパクトにまとまっている。高齢化と人口減少が進行し、持続可能な社会の構築について検証するのに適した地域と考え、プロジェクトの対象地域に選定した。

坂本学長は「島守と同様の課題を抱えた地域は全国、海外にある。研究の成

果を国内外に発信していきたい」と抱負を述べた。上野事務局長は「古里の姿を見つめ直し、未来を変えることにつながるのではないかとわくわくしている」と語った。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」